【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第５区分
【発行日】平成19年4月12日(2007.4.12)

【公開番号】特開2006-63460(P2006-63460A)
【公開日】平成18年3月9日(2006.3.9)
【年通号数】公開・登録公報2006-010
【出願番号】特願2004-244604(P2004-244604)
【国際特許分類】
Ｄ０６Ｎ　7/00　(2006.01)
Ｅ０４Ｃ　2/24　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｄ０６Ｎ　7/00
Ｅ０４Ｃ　2/24　Ｒ

【手続補正書】
【提出日】平成19年2月26日(2007.2.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００２】
主として外壁の下地材などに使用される建築用板を製造するための従来法として、たとえば、鉱物質繊維に無機粉状体または硬質無機発泡体を加えることが知られている。この建築用板の製造方法は下記特許文献１に記載され、鉱物質繊維、無機粉状体および粉末合成樹脂結合剤を必須成分とする混合物を均一に散布して下層部を形成し、次いで、鉱物質繊維、硬質無機発泡体および粉末合成樹脂結合剤を必須成分とする混合物を下層部の上面に均一に散布して中層部を形成し、この中層部の上面に、鉱物質繊維、無機粉状体および粉末合成樹脂結合剤を必須成分とする混合物を均一に散布して上層部を形成した後、加熱状態で圧締して一体化する方法である。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
本発明を、複数層の積層構成を有する建築用板の製造に適用する場合、ワンショット法または練り合せ法のどちらを採用しても良い。ワンショット法によるときは、上下熱圧盤の間に各層を形成するマットを順次重ね合わせて積層マットを得、所定の熱圧条件により熱圧することにより建築用板を製造する。この場合、予め個々に形成した各層のマットを重ね合わせ積層マットとしても良いし、最下層の成分から順次混合物を散布することにより積層マットを形成しても良い。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２２】
練り合せ法を採用する場合は、各層を形成するマットごとに熱圧成形して各々に対応す

る板素材を製造した後、各板素材を接着剤を介して重ね合わせ、熱圧または単に加圧することにより建築用板を製造する。あるいは、上記のようにしてマットを熱圧成形した板素材を表裏層に用い、表裏層に挟まれる中間層には、合板、木質繊維板（ＭＤＦなど）、木削片板、単板積層板などの木質系、スチロール樹脂、塩化ビニル樹脂、強化プラスチック、発泡スチロール樹脂、発泡ウレタン樹脂などの各種合成樹脂板、あるいは木質系や合成樹脂系の複合積層板など適宜の板素材を使用して積層一体化して建築用板としても良い。

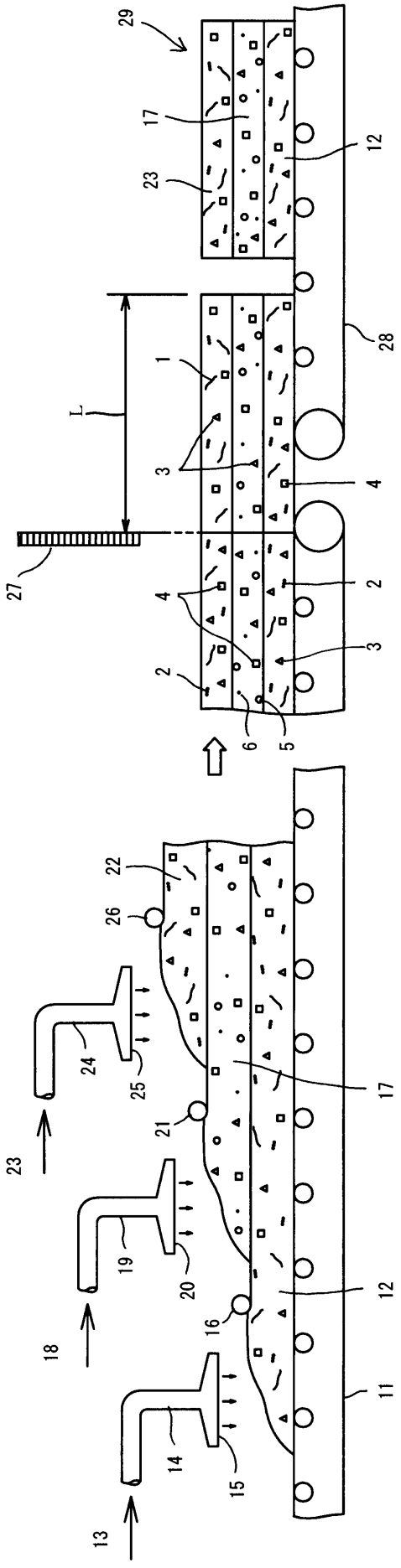
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】
請求項１にかかる本発明によれば、結合材として液体状結合剤を使用しているため、無機系繊維および有機系繊維に対して該液体状結合剤を均一に分布させたマットを得ることができ、このマットを熱圧成形することにより全体に亘ってこれら繊維の結合のばらつきが少なく、結果として機械的強度、特に曲げ強度のばらつきの少ない建築用板を製造することができる。無機系繊維および有機系繊維に対して液体状結合剤を均一に分布させる方法としては、液滴、噴霧、撹拌などの操作により行う。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３１】
請求項２にかかる本発明によれば、複数層から形成される建築用板を製造するに際して、少なくともその表面層に対応するマットの形成において液体状結合剤を使用するので、無機系繊維および有機系繊維に対して該液体状結合剤を均一に分布させたマットを得ることができ、このマットを熱圧成形することにより全体に亘ってこれら繊維の結合のばらつきが少なく、結果として機械的強度、特に曲げ強度のばらつきの少ない表面層を有する建築用板を製造することができる。無機系繊維および有機系繊維に対して液体状結合剤を均一に分布させる方法としては、液滴、噴霧、撹拌などの操作により行う。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３３】
請求項３にかかる本発明によれば、表面層と裏面層との間に少なくとも一の中間層が配されてなる建築用板を製造するに際して、該中間層に対応するマットの形成において液体状結合剤を使用するので、無機系発泡体および有機系繊維に対して該液体状結合剤を均一に分布させたマットを得ることができ、このマットを熱圧成形することにより全体に亘って無機系発泡体と有機系繊維の結合のばらつきが少なく、結果として機械的強度、特に曲げ強度のばらつきの少ない中間層を有する建築用板を製造することができる。無機系繊維および有機系繊維に対して液体状結合剤を均一に分布させる方法としては、液滴、噴霧、撹拌などの操作により行う。

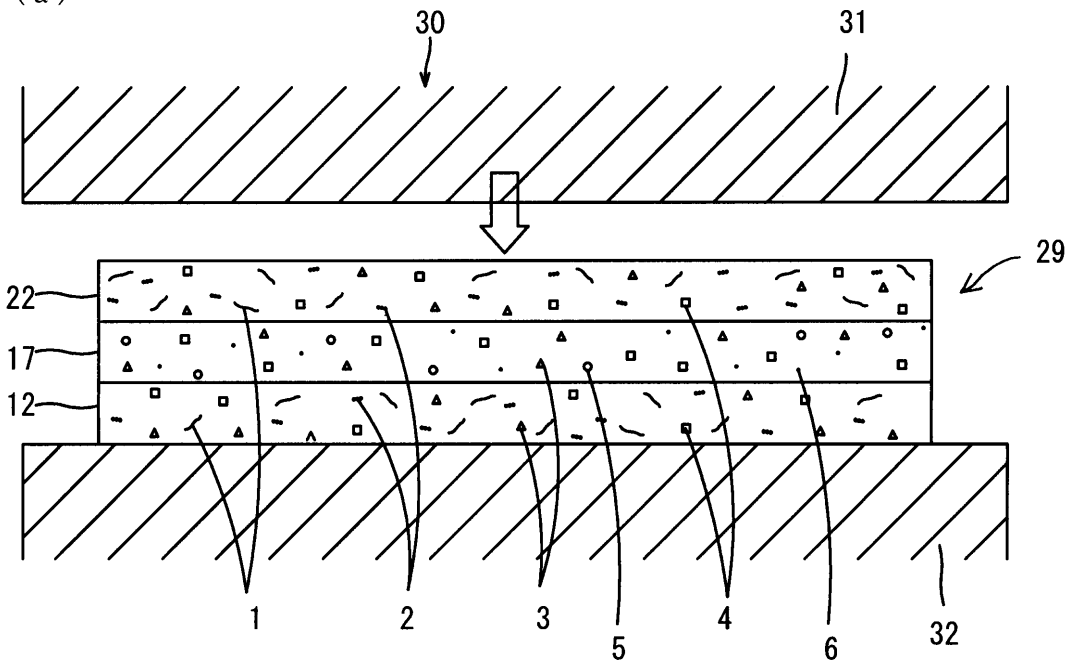
【手続補正７】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図１
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図１】


29
17
23
12
28
1
L
3
4
27
4
2
2
3
6
5
22
26
24
25
17
21
23
19
20
12
16
18
14
11
15
13

【手続補正８】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【図２】

（ａ）



（ｂ）

